

このニュースはFAXとメールで送信しています。地域民報への転載、各支部への配布にご活用下さい。

さっぽろ

市議団ニュース

2014年3月18日

No.106

日本共産党市議団事務局発行
電話 211-3221 FAX218-5124

市内農産物の地域ブランド化、進めよ 宮川潤議員が質問

宮川潤議員は17日の予算特別委員会で、玉ねぎの“札幌黄”^{さっぽろき}の普及促進と、市内農産物のブランド化について質問に立ちました。

札幌黄は東区特産の玉ねぎで、その肉厚で柔らかい、火を通すと強い甘みが出る特徴的な味わいに根強いファンも多いのですが、価格は一般玉ねぎに比べ、およそ2倍。生産農家が20戸、作付面積は10haと少なく、病気に弱く大きさが不ぞろいなどの理由によるものとされています。

宮川議員は、「消費者や料理店、食品加工会社が、多少価格が高くても納得して札幌黄を名指しして購入するようになることをめざすべき」と述べ、さらに「手稲区の大浜みやこかぼちゃや、サトホロいちごなどもある。札幌黄の地域ブランド化を先行事例に、これらの農産物へと広げていくべきだ」と、地域ブランドの普及を求めました。

三部英二農政部長は「札幌黄は、市民が主体的に魅力を評価し、支援している。その価値の理解・評価が、再生産可能な価格での購入に結び付いているのではないか」、「農産物の情報提供、生産者との交流など、第2第3の地域ブランドの掘り起こしをすすめ、生産拡大に向けた支援を行いたい」と答弁しました。

また、宮川議員は、「食料自給率を高めるために一番重要なのは、農業経営で食べていけること」と指摘。「札幌の農家戸数、農地の減少に歯止めがかかるよう、展望を示しながら支援をすすめてほしい」と求めました。